

11月の研修が終了しました

11月2日(木) 看護研修センター

新人のフィジカルアセスメント というテーマで、新宮市立医療センター 集中ケア認定看護師 **汐崎 末子** 講師の講義に、148名の参加があった。

呼吸・循環・脳神経についてのフィジカルアセスメント方法の講義があった。呼吸の観察方法や正常と異常の呼吸音、心電図の基礎や心音聴取、また運動機能の評価や意識障害の評価などを解剖生理から病態に関連付けての説明があった。受講生は、熱心にメモをとり、個人的に質問する場面があり積極的に受講していた。

アンケート結果から、「ねらいに沿った学習ができた」「呼吸聴診の方法など現場でも使いやすい技術を学べてよかった」など、今後活用できるという意見が多かった。



《講義の風景》

11月10日(金) 看護研修センター

一般病棟で知りたい精神症状のある患者の理解とケア というテーマで、精神衛生研究所副所長 **大塚 恒子** 講師の講義に、71名の参加があった。

怒りっぽい・あまり反応がないなどの臨床で遭遇する精神症状を、観察項目ごとにアセスメントする方法の説明があった。また、その精神症状に対するケア方法も事例を用いて詳しく学んだ。うつ病やアルツハイマー型などの認知症についても、病態をはじめ対応の仕方についての講義があった。

個人的に質問している様子もあり、受講生は熱心に受講していた。

アンケート結果より、「各病態に応じた看護介入の具体例が知れてよかった」「アセスメントや具体的なケアを教えて頂き、イメージしながら研修を受けることができた」など、日常的に悩んでいた部分への解決策が見つけれられる研修であった。



《講義の様子》

11月18日(土) 看護研修センター

周手術期の看護の実際 というテーマで、有田市立病院 手術看護認定看護師 **山本 純史** 講師の講義に、38名の参加があった。

講義はグループワーク形式で1日行われた。

まず、個人の情報（好きな診療科は？好きな手術器械は？など）を記録用紙に記入し、グループ内で他者が紹介する。それによりお互いの緊張をほぐすところから始まった。

外回り看護師に求められることについて、全身麻酔導入方法などを通して学んだ。

また、内服管理として術前中止薬剤と継続薬剤について詳しく説明してくれた。

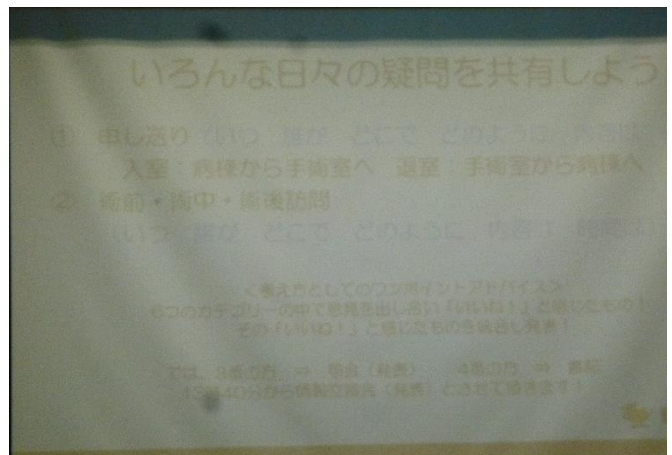
手術体位による呼吸・循環の影響や皮膚・神経障害、SSI（手術部位感染）対策などを学び、講義途中では、小テストとして、講義の振り返りをしながら進めてくれた。

申込み・術前・術中・術後訪問についてのグループワークを行い、発表することで情報を共有をして、受講生が自施設に帰り実践ですぐに活かせるようにした。

最後に看護過程のグループワークを実施。事例を通して、手術室看護を考えた。



《グループワークの様子》



《見えにくいですが、これらを考えた》



《発表して、グループワークの内容を情報共有する》

11月24日(金) 看護研修センター

人工呼吸器ケアが好きになる というテーマで、紀和病院 慢性呼吸疾患看護認定看護師 **白石 菜保子** 講師の講義に、104名の参加があった。

人体模型を用いて肺葉の位置を確認し、気管支体操を実際に行った。人工呼吸器の適応や目的、しくみなどの講義があった。複雑な換気モードについては、例えを用いてそれぞれの違いをイメージしやすく説明してくれた。午後からは、呼吸器を取り扱う業者4社にそれぞれの特徴の説明と体外式人工呼吸器などの体験をさせてもらった。また、気管チューブのカフ圧の調整方法やマスクのフィッティングなども体験した。

アンケート結果より、「呼吸器に対する苦手意識を克服することができた」「実践的な内容であった」など前向きな意見があった。

呼吸器各業者の説明では、所要時間等にばらつきが出てしまいスムーズに進行できず、今後検討していきたい。



《模型を用いて説明している様子》



《気管支体操の様子》



《業者が呼吸器の説明をしている様子》



《体外人工呼吸器を体験している様子》



《補助教材として》

11月30日(木) 看護研修センター

看護記録をマスターしよう ～誰がみてもわかる記録～ というテーマで、社会福祉法人聖母会 聖母病院 副院長 **岩淵 泰子** 講師の講義に、104名の参加があった。

看護記録の目的や意義や記録の様式、記録の記載内容などの講義があった。受講生は、メモをとりながら熱心に講義を聞いていた。

事例を使って記録の書き方についての説明があった。普段記録している表現を振り返ることができ、誰がみてもわかる記録の仕方や適切な記録方法を学んだ。

監査や医療事故など記載上の留意点について、具体的な説明があった。

アンケート結果より「思った以上に記録の重要性を感じ、細かな記録が必要だと分かりました」「事故時の対応がよく分かった」など、看護記録の重要性を実感できた研修であった。



《講義の様子》